

新聞等に掲載されたベビーカー利用についての意見

1. 周囲の態度

- 「ベビーカーを押して電車待ちをしていたら『邪魔だ』と怒鳴られた。」
- 「電車の乗り降りも周囲が気になって最後になる。いつドアが閉まるのか不安でいっぱいだ。」
- 「迷惑にならないよう気をつけているが、『通路をふさぐな』と注意されることもある。ベビーカー利用者だけに負担を押し付けるのは疑問。」
- 「混んでいる時間はずらしているが、『邪魔だ』などと言われて嫌な思いをした。邪魔と思われても外出しないとイケないこともあるし、周りの方にも理解してほしい。」
- 「ベビーカーはどの位置にいるのが、邪魔にならないか考える。子どもの足が当たったりとかで舌打ちされたり。」
- 「ベビーカーは混雑した電車内で2, 3人分の空間を取ってしまう。肩身が狭い。」
- 「周りから邪魔者扱いされる。」

2. ベビーカーの使用方法

- 「混雑時はベビーカーを畳んで乗るよう心がけているが、長男を抱き、荷物とベビーカーを持って乗車するのは大変。理解してほしい。」
- 「子どもをベビーカーから降ろして抱っこし、荷物を持つと重さは20キロにもなる。絶対に無理。」
- 「子どもを抱っこして、ベビーカーを持って電車に乗るのはかえって危険。」

3. 公共施設・設備

- 「(駅に階段しかないので) 子どもが7キロ、ベビーカーが7キロ。自分ではとても持てない。いつも駅員さんに手伝ってもらう。」
- 「方南町駅は階段しかないので、隣の中野富士見町駅まで歩いている。」
- 「電車の車いすのスペースに『ベビーカーもOK』のようなサインを出してほしい。」
- 「どうしても混んでいる電車にベビーカーで乗らざるをえないとき、周りの人の目は気になる。車内に車いすだけでなくベビーカーを乗せてもいいというマークを付けてもらえると、利用しやすいと思う。」
- 「(広い改札が) 通れるときはいいが、人が止まって窓口で聞いていたり、(幅の狭い改札を) 急いでいると通らざるを得ない。」

4. ベビーカー利用者の態度

- 「集団で乗車してきた利用者が通路をふさいで邪魔だ。」
- 「電車などで若い人がベビーカーを通路いっぱい置いて通れないことがある。もう少し気を遣ってくれればいいと思う。」
- 「母親がスマートフォンばかり見て、ベビーカーに注意を払っていない。」

- 「当たり前のように『どいてください』という感じで乗ってくる人がいて、嫌だと思
うときがある。ただ、赤ちゃんを育てることは大変なので『ベビーカーを使うな』と
は言えない。なるべくお互いさまと思うようにしている。」
- 「ベビーカーで足を踏まれ、痛かったが謝ってもらえなかったことがある。お互いに
思いやりの気持ちを持つことなどのルールを作ったほうがいい。」
- 「(電車を降車する際にベビーカーに足を強打されたが、)ひとこと声を掛けてくれれ
ばよかったのに、『子どもがいるんだから仕方がないでしょ』と言わんばかりの振る
舞いだっただ。」

※【周囲の態度】

- 「誰だって赤ちゃんの時はあったので、そのくらいの思いやりはあってもよいのでは。」

5. ベビーカーの使用方法

- 「子育て中だからと、他人に配慮しない母親が目につく。公共交通機関を利用する時
は抱っこひもで、ベビーカーを畳んで乗るのがマナーだ。」
- 「(電車に乗車する際) 混雑時は畳むべきだ。」
- 「(電車に乗車する際) 混雑時の利用を控えるべきだ。」
- 「(電車に乗車する際) 大きいので、畳んでもらえるといいかなと思う。」
- 「混雑した場所では折り畳むべきだ。」

※【ベビーカー使用は控えるべき】

- 「昔はおんぶしたもの。今の母親は甘えている。」
- 「今のベビーカーは大きくてじゃま。」

6. その他

- 一部のマナーの悪い人がクローズアップされて、ベビーカーで電車に乗る人は傍若無
人でマナーがなっていないというイメージが広まってしまっている気がする。ベビー
カーを利用する側にもマナーが、見守る側には寛容性があるのが理想。
- 人々の意識やマナーに論点がいきがちだが、システムによっても解決できることを論
じるべき。例えば、待機児童が多くて近所の園に入れず、出勤時間帯に子どもを連れ
ていくしかないことが理由の一つとしてあるが、企業がフレックスタイム制を導入す
るだけでも解決できること。
- ルールや仕組みを作るほど、その枠組みから外れたことを許容できなくなる懸念があ
る。「ベビーカー可」「子ども可」「車椅子可」とすると、逆に、「可」とうたっていない
場所には行ってはいけないのか、となる。